

IT  
トラ  
ック

**IT-1** プロジェクトマネジャーに必須の法務知識  
8/30 13:10 あなたの業務は、新しい法務知識でどのように変わるか

**ゼッタテクノロジー株式会社 経営統括本部**  
本部長 **梶原 定**

■ **セッション概要** 急激に変化する市場環境の中で、企業がその変化に迅速に対応するには法的な配慮が不可欠である。ソフトウェア開発業務の外注契約締結だけでも、基本知識として、下請法、知的財産権の帰属、情報セキュリティ、個人情報保護法などを考慮する必要がある。本講演では、業務遂行上、プロジェクトマネジャーが知っておくべき法務知識は何か？ 法律は仕事をどう変え、どの場面で使い、仕事にどう影響し、どう対応すればよいか、P2M手法を取り入れいかに対応するかを実践事例をベースに概要を紹介する。

■ **講演者略歴** 1972年 日本CDC (株)入社。超大型コンピューターCDC6600のSEとして販売業務に従事。1981年、パーキンエルマー・ジャパン (株) 入社。「電子ビーム描画装置」の販売に従事。1986年、(株) 山田洋行にて日本語文字フォント新規事業を立上げる。現在、ゼッタテクノロジー株式会社 経営統括本部長。

**IT-2** 大規模プロジェクトの要件定義フェーズの成功への効果的手法  
8/30 14:20 Slerのお客様WBSへの積極的参画

**富士通株式会社 自動車ビジネス本部**  
プロジェクト課長 **武田 康利** **CFP**

■ **セッション概要** 大規模SIプロジェクトの失敗は要件定義の進め方に多くが起因している。限られた予算と厳しい納期、そしてステークホルダー間で増大する複雑な業務要件。これらの相反要求に対して、お客様満足度を高め、リスクを低減する具体的な手法は何か？ 本講演では成功事例をもとに、「お客様作業へのSIerの積極的参画」、ステークホルダーの合意形成の手法「パネル展示会」、要件増加に備えた「要件成熟度による合理的絞込み」などの手法を、SIプロジェクトの最大の障壁である「要件定義」を克服する手法として提唱する。

■ **講演者略歴** 1993年、富士通株式会社に入社。以降、SEとしてSI開発プロジェクトに従事。97年以降はプロジェクトリーダーとして、商談～上流工程推進を中心に活動、最大4000人月程度の大規模プロジェクト経験を積み現在に至る。PMP®。

**IT-3** TPSに学ぶプロジェクトマネジメント  
8/30 15:30 問題を語り合い解決するIT現場へ向けて

**宮崎 友之 (インテック)、竹田 敏幸 (日本アドバンストシステム)**  
小原 由紀夫 (FFC) **SIG**

■ **セッション概要** ITプロジェクトにおいては、技術とビジネス環境が激しく変化しているため、問題が発生することは珍しくない。問題発生自体が問題ではなく、自ら問題を認識して解決せず、やがて大問題になるようなIT現場こそが問題である。TPS (トヨタ生産方式) の生産現場では、「問題が無いことが問題」と考え、個人と組織の力を連動させて問題に対峙し、改善し続けている。IT-SIG内のTPSに学ぶPM-WGでは、IT現場で問題を語り合い、プロジェクトチームとステークホルダーで問題に対峙し、解決していく為の対策を提言する。

■ **講演者略歴** IT-SIGのTPSに学ぶPM-WGメンバー  
・宮崎友之：(株) インテック 部長 ITコーディネーター  
・竹田敏幸：(株) 日本アドバンストシステム 携帯システム開発/保守に従事  
・小原由紀夫：WG主査 (株) FFC PMP® 米国ケイデンス社認定講師

**IT-4** 上流工程におけるマイルストーンアセスメント  
8/30 16:40 プロジェクトマネジメントへの組織的取組み

**日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社**  
執行役 プロジェクトマネジメント統括本部 本部長 **森 悦郎**

■ **セッション概要** 現在、お客さまから受託する「システム開発」におけるプロジェクトマネジメントの成否が、受託した会社の業績に大きな影響を与える。当社においても過去大きなプロジェクトマネジメントの失敗により赤字決算をした。そこで、過去のプロジェクトマネジメントの失敗から学び、プロジェクトマネジメントプロセスを大改革し、業績回復することができた。本セッションでは、当社における「プロジェクトマネジメントへの組織的取組み」および上流工程における「マイルストーンアセスメント」を中心に、その実際を紹介する。

■ **講演者略歴** 1975年株式会社日立製作所入社。公共・社会関係システム・エンジニア、2003年より情報・通信グループ事業推進本部長、販売計画本部長。2006年日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社入社。プロジェクトマネジメント統括本部長を経て現職。

エン  
ジ  
ン  
建  
設  
・  
公  
共  
ト  
ラ  
ック

**EG-1** なぜ、日本が太陽光発電で世界一になれたのか  
8/30 13:10 技術力とPM力が支える新エネルギーエンジニアリングの進化

**独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構**  
新エネルギー技術開発部 主査 **山本 泰司**

■ **セッション概要** 日本の太陽光発電は実に30年余の歴史を有し、今や世界をリードする産業に成長した。また国内導入量も142万kWに達し、いよいよ身近な新エネルギー源として認知されている。一口に30年と言ってもその過程では多くのターニングポイントと、成功、失敗の繰り返しに直面しているわけであり、本セッションでは、現在の地位を築くまでのその様々なドラマ (物語)、そして、官民一体での技術革新とプロジェクト運営のノウハウを紹介し、企業の枠を超えて遂行される、新エネルギー分野のプロジェクトの近未来像を展望する。

■ **講演者略歴** 2004年独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構新エネルギー技術開発部に配属。太陽光発電新技術等フィールドテスト事業、風力発電フィールドテスト事業を担当し、国内の太陽光発電普及に資する。2006年3月PMS資格取得。

**EG-2** プロジェクトを定量的に判断するための指標づくり  
8/30 14:20 EVMSの実務への適用と秘訣

**千代田化工建設株式会社 プロジェクト・コントロール部**  
部長 **小泉 裕**

■ **セッション概要** 最近の大規模プラントEPCプロジェクトでは投入される人的資源も大型化するなど、従来のPM手法だけではプロジェクトの状況判断が難しくなっている。プロジェクトを定量的に判断するツールの一つとしてEVMSが提唱され、その概念は数多く出版されている書籍で紹介されているが実務への適用にあたり多くの問題に直面する。本セッションでは、大規模プロジェクトでの「見える化」へのEVMS運用、プロジェクト従事者への動機付け、JV方式でのプロジェクト遂行に関するPM手法の実務面での秘訣などについて議論する。

■ **講演者略歴** 1978年早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了。同年千代田化工建設株式会社入社。国内プロジェクトのプロジェクトマネジメントを担当。海外プロジェクトに1999年より従事。大規模EPCのプロポーザル担当。2003年より現職にて社内PMツールの改善、運用を指揮。PMP®

**EG-3** チーム力により共勝ち (win-win) を確保するプロジェクトマネジメント  
8/30 15:30

**二宮プロジェクト顧問・技術士事務所 代表 二宮 孝夫** **CFP**

■ **セッション概要** 「パートナーリング」とは、建設請負契約上の業務の共通目的を発注者側と請負者側とで認識し、信頼関係を形成し、チームとして問題を見出し、その解決策を実践していくプロジェクトマネジメント手法である。共通目的とは、「予算、工程の厳守とコスト削減努力」、「適正利潤」、「安全、地域社会への貢献」、「参画者の緊密なコミュニケーションによる協働精神と相互信頼の醸成」、「訴訟の抑制、防止」等である。パートナーリング参画者は、Honest、Trust、Respect、Commitment、Fair、等の共通土壌を持たねばならない。

■ **講演者略歴** 株式会社熊谷組入社後、東京での勤務を経て1976年から「香港地下鉄工事」に3期勤務 (作業所長)。本社事業部課長を経て1987～1994年「バンコク高速度道路会社社長 (BOT)」、本社海外営業総括部長、執行役員海外本部長。2006年4月より「二宮プロジェクト顧問・技術士事務所代表」。

**EG-4** 建設プロジェクトマネジメントの日本的展開  
8/30 16:40 プロジェクト実例を通して、日本のクライアントに対する姿勢を考える

**ボヴィス・レンドリース・ジャパン株式会社**  
代表取締役 CEO **ジョン・ディキソン**

■ **セッション概要** 建設プロジェクト実施時のPMアプローチは徐々に日本でも普及しはじめた。海外のクライアントが定常的に採用しているPMアプローチを、日本のクライアントも最近になって取り入れているが、多くの場合、PMアプローチの基本的な目的と手法が十分理解されずに、公正で説明責任のある手法によるプロジェクト遂行と、建設業界の様々な関係者間の長年に亘る良好な関係とが、相反する結果を招く傾向にある。この状況を最近のプロジェクト例で示し、日本でPMをより効果的に適用する時のバリアを打破していく方法を提起する。

■ **講演者略歴** 1953年ニュージーランド生まれ。(株) 黒川紀章建築・都市設計事務所、(株) 日建設を経て、ボヴィス・レンドリース・ジャパン (株) 代表取締役 CEOに就任し、現在に至る。国土交通大学校非常勤講師等を務める。日本におけるPM・CMの普及に貢献している。

P  
2  
M  
ト  
ラ  
ック

**PA-1** 旭硝子における技術・技能強化伝承活動の全社展開について  
8/30 13:10 P2Mの視点からの振り返り

**旭硝子株式会社 モノづくり技術強化室 AGCモノづくり研修センター**  
所長 **林 英男**

■ **セッション概要** 「モノづくりへのこだわりの現場力の強化」という経営課題に対し、P2Mの手法を用いて「技術・技能の強化、伝承」活動としてAGCグループ全社に展開した。短期間で継続的・効果的な活動を展開し、第1段階での所定の成果を得た。装置産業から組み立て産業まで多岐に渡る分野を持ち、またグローバルに展開する企業として、これまでのプロセスを振り返り、整理し、今後の展開のための課題を含めて、実践事例として説明する。

■ **講演者略歴** 1981年東京大学工学系研究科産業機械工学専攻修士課程修了。同年旭硝子株式会社入社。硝子製造設備の保全業務での工場経験、同エンジニアリング業務を経験。現在は、モノづくり技術強化室AGCモノづくり研修センター所長として、全社の技術・技能強化伝承活動を推進中。PMAJ会員。

**PA-2** ものづくりの現場と経営をつなぐプロファイリングマネジメント  
8/30 14:20 食ビジネス (中食製造メーカー編)

**キュービー株式会社 エンジニアリング部**  
次長 **藤澤 正則**

■ **セッション概要** P2M研究会では、2006年4月から12月まで、プロファイリングマネジメントについて、研究を行った。IT、エンジニアリング系では、発展してきているP2Mのツールを、今回、ものづくりの現場と経営をつなぐプロファイリングマネジメントとしてありのままの姿、あるべき姿、実施課題の抽出、実現方法などをどのように考え、進めていくかを食ビジネス (中食製造メーカー編) を事例として、取り上げる。

■ **講演者略歴** 1985年キュービー (株) 入社。生産、エンジニアリングに従事後、小売物流関連の組合に出向し、原料から販売までの仕組みの構築のPJなど携わり、現在、グループ会社や顧客への事業改善、工場計画支援などの業務に従事。PMAJ (PMR)、日本冷凍空調学会会員、日本食品工学会会員

**PA-3** 金沢医大検査部の変革プロジェクト Polar Star  
8/30 15:30 医療制度改革下でのP2M実践チャレンジ

**金沢医科大学 病院検査部副技師長 山崎 美智子、病態診断医学 教授 野島 孝之**  
経理管財部長 **大野木 辰也、理事長室長 浅野 進一郎** **CFP**

■ **セッション概要** 日本は国際比較では安価で質の高い医療を提供してきたが、世界に例を見ない急速な少子高齢化が進む中、政府と国民からは、より安く、より安全で、より質の高い医療サービスが求められてきている。2004年秋、経営側からのアウトソーシング化検討要請を機に、金沢医大検査部ではP2Mによる変革プロジェクト Polar Star を開始した。変化のスピードに対応できるプロフェッショナル集団を目指し、コスト削減と人材育成と組織改革に取り組んでいる。病院および地域社会に良い循環を生み出す組織へと成長していきたい。

■ **講演者略歴** 山崎美智子：臨床検査技師、PMS、医療情報技師。2004年より検査部プロジェクトオフィスマネジャー。医療制度改革下でのP2Mの有効性を関連学会やセミナーでアピール中。野島孝之：医師、検査部・病理部長兼務。大野木辰也：経理・人事・経営分析業務に従事し、現在は経理・管財部門担当。浅野進一郎：管理運営担当。

**PA-4** プロファイリングマネジメントにおける実践的洞察モデルの検討  
8/30 16:40

**P2M研究会 國谷 正**

■ **セッション概要** P2Mにおける中核概念としての「プログラム統合マネジメント」を実施するうえで重要な位置づけにあるプロファイリングマネジメントについて、「ありのままの姿」から「あるべき姿」を導くための方法として洞察力と俯瞰力を用いる方法がある。これらを説明するものとして俯瞰力モデルと洞察力モデルがあるが、ここでは洞察力モデルを実際のビジネスに使用するための実践的モデルとしてアレンジし、想いのブレークスルーと複数の想いの組合せ及び連鎖から「あるべき姿」そして「実践する姿」までを導く試みを行なった。

■ **講演者略歴** 1990年千代田化工建設 (株) 入社、食品・医薬品・化学プラントのプロジェクト管理及びエンジニアリングを遂行。2002年富士電機 (株) 入社、環境プラントのエンジニアリング及び新事業の事業化プロジェクト、環境装置の開発プロジェクト等に携わる。